

vol.29

2013
SPRING

これからは、「男女」が「共同」して
仕事に、学校に、地域に、家庭に
「参画」していく時代です。女性も
男性もお互いに自立した良き
パートナーとして、イキイキ暮ら
せる佐賀市をつくりましょう。

Passport

佐賀市男女共同参画情報誌
ぱすぽーと

CONTENTS

- | | |
|----------------------------|------|
| 平成24年度 女・男フォーラム | p2~3 |
| 男女共同参画研修会 | p4 |
| 男女共同参画推進協賛事業所紹介 | p5 |
| 第8回 一言メッセージ入賞作品 | p6~7 |
| 第22回男女共同参画全国都市会議inかなざわ参加報告 | p8 |

平成24年度

ひと ひと ひと 女・男フォーラム

講演『正しいパンツのたたみ方』

~自分を輝かせるスイッチは自分の中にある~

家庭科を学ぶことを通して「自立できる生活力」を身につけ、「社会の中でお互いを認め合い、共に生きていくこと」の大切さをお話いただきました。



みなみの ただはる
講師：南野 忠晴さん

「正しいパンツのたたみ方」著者、
大阪府立八尾北高等学校家庭科教諭、
NHK教育テレビ高校講座「家庭総合」講師

高校英語教諭を13年勤めた後、高校生の生活実態に触れるうち家庭科の重要性に目覚め、初の大阪府立男性家庭科教諭に転身。講演会の講師としても活躍中。

◎正しいパンツのたたみ方？

講演会のテーマである『正しいパンツのたたみ方』は、ある男性の「悩み相談」から生まれました。

Aさんは共働きで、家事も相応に分担していましたが、何度も「パンツのたたみ方が悪い」と妻から注意されるので、洗濯物の山を見るだけで気持ちが沈むようになってしまいました。

Aさんの悩みは、一見すると取るに足らないことのように見えますが、違いを持つもの同士が家庭なり社会で一緒に暮らしているのですから、誰にでも起こりうる切実な問題です。

相手が自分の思うようにしてくれないと非難するのではなく、話し合って「ああ、そういうたたみ方もあるのか」と一步引いて受け止められたら、きっと二人とも満足できるに違いありません。

◎家庭科を学ぶ意義

私は授業中、生徒たちにできるだけ自分の考えを発表してもらっています。生徒たちはみんなの意見を聞くうちに、「ああ、そういうやり方や考え方もあるのか」と気付くようになります。そして知らず知らずのうちに、社会には実際に多種多様な人がいて、その数だけ生き方や考え方があることを理解するようになります。

それは他の人の考え方や価値観で、物事をとらえなおす能力を身につけたということであり、「複眼でのものを見る力」といいます。

人生の選択に迷ったとき、複眼で自分の置かれている状況を振り返ることができたなら、おそらく後悔するような選択はしなくなります。また、それは、相手の立場に立って考えられるということですから、人間関係もよりよいものになっていきます。

家庭科を学ぶ意味は、決して技術的なことだけではないのです。

◎お互いを認め合い、自立した生き方！

誰がどう見ても”ふつう”の関係にしか見えないつながりの中にも、「依存」や「支配」の構造が隠れている場合があります。

夫は妻を自分の思うようにしたがり、妻は子どもを自分の理想型の中に囲い込みたがり、子どもは必死で親の希望に合わせて自分の人生を作ろうとします。こういう家族関係はさぞ毎日が緊張の連続でしょう。

本当の幸せとは「自分であること」に安心できるということです。家庭、学校、職場、地域など、あらゆる場面でお互いを尊重し合う関係があってこそ、初めて「自立」した生き方ができるのです。

参加者の声

- 「自分の価値観を相手に押し付けない」本当にそうだなと思った。
- 前向きな人生は自分次第。とても勉強になった。
- 考え方をどう意識するかで自分が変わるとと思った。



ひと ひと
カ ジ
11月11日(日)、ほほえみ館で、女・男フォーラム「ちょっと家事ってみませんか!? ~ふれて学んで“生活力”アップ~」を開催しました。講演会と3つの講座を開催し、多くの市民の方にご参加いただきました。

講座1 プロが教える!コーヒーの入れ方入門

講師：前山 治彦さん(コーヒー焙煎人)

ペーパードリップ式の入れ方や正しいコーヒー豆の保存方法などを教えていただきました。また、自己流とプロの入れ方で入れたコーヒーの飲み比べもしました。入れ方が違うだけで、味に違いが出ることに驚かれていました。



参加者の声

- 楽しい講座だった。男性の方が多かったのが意外だった。
- 今までおいしいと思って飲んでいたコーヒーだが、本当のおいしさを知る事が大事だと知った。
- 毎日おいしいコーヒーを飲んで健康でくらしたいと思う。
- 自分では正しいと思っていたことが間違っていたり、勉強になることばかりだった。また参加したい。

講座2 あなたもおかたづけ上手に!暮らしを見直すチャンス

講師：田崎 工ミさん

(整理収納アドバイザー1級、マスターライフオーガナイザー)

使わない物をとっておけば無駄なスペースが生まれ、物を探す時間が増えます。生活の軸を「物」ではなく「人」を中心に捉えて、物への執着心を捨て、物を捨てるこの大切さを学ばれたようです。



参加者の声

- 帰ってから早速不要な物を処分しようと思う。
- 自分にとって必要なものは使うものということだと分かった。
- 片付けについての論理づけがされ、片付けができそうな気がする。
- 身边に実行できることが多く、是非したいと思う。使わないものは捨てるのが基本。

講座3 職人に学ぶ!アイロン掛けの極意にチャレンジ

講師：佐賀県クリーニング生活衛生同業組合

実際にワイシャツにアイロン掛けを行いました。襟周りや袖口などの処理がなかなかうまくいかない方や何回もチャレンジする方などがいらっしゃいました。アイロンをかける順番など、ちょっとしたコツを教えてもらうことで、自己流でやったときとは見違えるような仕上がりとなりました。



参加者の声

- 実際に体験できるのは楽しいし、勉強になった。いつもやっていることがちょっとしたコツで楽になったり、キレイになるのは嬉しい。
- 家事はあくまで自己流。プロのやり方を知ると家事が楽しくなりそう。

男女共同参画研修会

講演 「男女共同参画の現状と課題

～ダイバーシティ推進の観点から～』

労働力人口の減少、深刻化する介護による離職率の高さなど、これからの中には必要不可欠である、ダイバーシティ(以下DIV)やワーク・ライフ・バランス(以下WLB)。これらに先進的に取り組む多くの企業を分析・サポートしてきた経験や、自らの私生活での実体験を交えて、男女共同参画・DIV・WLBについての必要性や本質、取り組みによる効果についてお話をいただきました。



講師：渥美 由喜さん

厚生労働省 政策評価委員。(株)東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長。

共働きで、5歳児と2歳児の育児中。2回の育児休業を取得。4年前から、実父が軽度の認知症のため介護を行い、昨年は次男が難病を患い要看護となる。

参加者の声

- 昨今のように、消費者のニーズや価値観が多様化すると、それに応じて職場や組織も変化しなければなりません。男性、女性、独身の人、子育て中の、親を介護している人、障害を持っている人など、いろいろな社員がいて、その人たちが多様な能力を発揮している組織のほうが、社会の変化にも柔軟に対応ができます。それがDIVの活用です。
- WLBの本質は、絶えず業務体制を見直すことで、従業員のやる気を引き出し、個人もチームも生産性を上げることにあります。決して労働時間の短縮や有給休暇取得率の向上が本質ではなく、それはあくまでも結果です。WLBを進める上で重要なのは、育児休業などの制度よりも「お互いさま・思いやり」の精神であり、職場風土の改善・意識の改革です。
- WLBもDIVも、目指すところは「だれでも、いつでも、どこでも働きやすい、働きがいのある職場づくり」です。DIV、WLBは経営戦略、地域戦略として不可欠ですが、即効薬ではなく、漢方薬のようなもの。服用し続けることによって、強靭な企業体质、持続性の高い地域となります。



職員・人材リスト・協賛事業所等、総勢133名の方に
ご参加いただきました。

DIV……………異なる属性(性別、年齢、国籍など)や異なる発想・価値を活かすこと。多様な人材の活用。
WLB……………仕事と生活の調和。



男女共同参画推進 協賛事業所 紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている協賛事業所をご紹介します。

有限会社 いづみや珈琲

小売業



当社の業務内容からして男女区別する仕事ではなく、賃金においても各自の貢献度を吟味して基本的に平等としております。更に家庭を持つ女性

スタッフも子供の学校活動などがありますが、相互の助け合いを通じて全員で仕事を遂行しています。当社は顧客満足を第一にするものの、スタッフの社会的厚生の向上にも努力しております。

株式会社 三協

小売業(文具・事務用機器販売)



文具事務用品・オフィス家具・OA機器、地図などを取り扱う会社です。育児休暇や学校行事参加等、身近な所から職場環境見直しをそのつど行っています。将来はもっと多様性に富んだ職場環境を作り、社員と会社が共に向かえるように積極的にワークライフバランスに取り組んでいこうと思います。

株式会社 中川自動車

自動車整備業



当社は、整備業で男性が多く働いていますが、出産時休暇の取得、保育園や学校行事に参加可能、または一週間に一日ノー残業日を設ける等の男女共に働きやすい環境を作ることで、お互い優しさ、思いやり、明るく楽しい職場作りが出来るように取り組んでいきたいと思います。

財団法人 九州道路交通公安財団

サービス業



育児休暇はもとより、子供の急病や学校行事にもとても休み易く、有給休暇も遠慮なく受けてくれる職場です。子供を連れての出勤も可能で、子育てをしながらでも楽しく仕事ができます。また、欠勤日数等に重視を置かず、実力主義なので、やりがいのある職場環境です。仕事重視ではなく、家庭を中心とした組織になっています。

株式会社 神代薬局

医薬品・化粧品小売業(調剤薬局)



育児休業や介護休業制度を設けるだけでなく、経済的支援や職場復帰の支援なども行っています。また、女性社員が多いこともあり、女性の能力開発やキャリアアップできるような支援も行っています。

有限会社 イハラ建設

建築工事業



建設会社ですので現場の都合もありますが、勤務時間となるべく選択できるようにして、家庭のことや地域活動に積極的に社員が参加できるように取り組んでいます。

協賛事業所 募集中

事業所での男女共同参画の推進は、従業員の意欲向上や事業所のイメージアップに繋がります。協賛事業所への登録をお待ちしています！

登録先 佐賀市男女共同参画課

TEL:0952-40-7014

FAX:0952-29-2095

*応募用紙はホームページから取り出せます
[⇒http://www.city.saga.lg.jp/](http://www.city.saga.lg.jp/)

第8回 一言メッセージ 入賞作品



じゅぎょうさんかん、おとうさん見つけ
にこにこがおになったよ。 - お父さんへ

久保泉小学校1年 西山 穂香

お父さんがいつもお仕事で忙しいのに、仕事をお休みして授業参観に来てくれて、とても嬉しかったです。



こどもの部

◎味の素賞
親父ギャグを言っても油まみれになんでも、
やっぱり俺のお父さん
お父さんへ 龍谷中学校3年 江頭 隆二

◎有明佐賀空港賞
せんたくものをほすのも たたむのも
じょうずになったでしょ?
おばあちゃんへ 久保泉小学校1年 齊藤 美羽

◎板前割烹 香光賞
その曲がった小さな背中
それは困難を乗り越えてきた証だね。
ひいおばあちゃんへ 若楠小学校6年 松本 大輝

◎いしむら高木瀬店賞
朝おきたらいにおい。
お父さんが作ってくれる世界一おいしいパン。
お父さんへ 諸富南小学校2年 中田 真瑚

◎ガラス工房ダンダン賞
おととい牛さんの作り方を教えてくれてありがとう。
また教えてね。
お母さんへ 諸富南小学校3年 北島 肇耶

◎ガラス工房ダンダン賞
「俺達仲間だろ」その一言で何回私の心は助けられたかな
友達へ 昭栄中学校3年 山田 成美

◎北島マルボーラ賞
おかえりなさいの一言で安心。
だって、ばあちゃんがいるんだから。
おばあちゃんへ 諸富南小学校6年 山本 紀香

◎九州グリコ賞
初めてのそじでやさしくおそわったほうきのし方
今じゃバッチャリ
6年生へ 三瀬小学校2年 嘉村 侑也

学校賞 連続5回の応募をいただいた学校です。ご応募、ありがとうございました。

鍋島小学校 富士小学校 北山小学校 本庄小学校 三瀬中学校 諸富中学校

4月14日の「パートナーデー」に寄せて、家族や職場の同僚、友人などへ感謝の心を贈るメッセージを募集しました。4,290点もの心温まる作品の応募の中から、入賞された作品を紹介します。(学年は平成24年度現在)

主催:佐賀市男女共同参画ネットワーク“結い”



2本の腕で一度にできないだつこと家事
子供の笑顔は貴方のおかげ - 夫へ

富士町 柴田 由希子

様々な家事をしてくれますが、なかでも食事を作ってくれることが嬉しいです。冷蔵庫の中にあるものだけでおいしい料理をつくってくれます。



大人の部

◎板前割烹 香光賞
口論もバラ一輪で許しあう 自給自足の庭造り
共に花々愛でる幸せ
夫へ 島田 君子

◎北島マルボーラ賞
今まで家事手伝わなかった 手伝うと疲れる
足腰痛い よくわかったよ
妻へ 原 俊一郎

◎(株)佐賀花市場賞
「姑さん、カイロは? クリル巻きは?」と
気遣う言葉も鞠に詰めて 心温かバスの旅
お嫁さんへ 森 セイ子

◎サガ・ビネガー賞
育メンじゃなくても、子ども達は
あなたと一緒に嬉しそうで安心
夫へ 馬郡 裕子

◎のり道楽賞
二十(ハタチ)と十九の出会いから
一男二女と孫四人 素敵な君を一人占め
妻へ 土井 洋

◎JAさが佐賀中部地区中央支所賞
食卓で会話もはずむ 父の肉ジャガ。
妻・息子・娘へ 濑谷 俊昭

◎村岡屋賞
3年前僕が君に読んだ絵本、
今は君が妹に読んでる。うれしいね。
息子(7歳)へ 柴田 知行

◎森の香 菖蒲ご膳賞
妻となり母となり、それでも私らしくいられる。
あなたのおかげです。
夫へ 松尾 直子

◎肥前びーどろ賞
「これまで仕事出来たのも 君のおかげ
次は、僕の出番だ」「ありがとう」
ママへ 古賀 琢文

◎古湯温泉 鶴靈泉賞
苦労も全て自分の糧に。
老いてもますます美しい母は私の道しるべ。
お母さんへ 末吉 弥生

◎大和酒造賞
家事分担とても助かる
私の時間増えてうれしい ありがとう
夫へ 柳川 京子

◎理研農産化工賞
いつも笑顔と食事ありがとうございます。
洗濯と皿あらいはがんばるけん。
妻へ 富吉 敏文



4・14 パートナーデー

佐賀市では、女性も男性も良きパートナーとしてやさしく認め合い、いきいき暮らすことのできる社会をめざしています。

そこで、2月14日のバレンタインデー、3月14日のホワイトデーにちなんで、4月14日を、お互いを大切に思いパートナーに感謝する日“パートナーデー”としています。

パートナーデーに、家族や友人、職場の同僚など、まわりにいるあなたの大切な人へ、感謝の気持ちを伝えてください。

第22回男女共同参画全国都市会議 inかなざわ参加報告

11月15日・16日、石川県金沢市で「第22回男女共同参画全国都市会議」が開催されました。

防災からはじまる地域活動

岡本 ゆかり

「防災からはじまる地域活動～女と男の協働～」ワークショップの中で、東日本大震災時の避難所開設当初、授乳や着替え場所がなく、多くの女性が困ったこと、男性が瓦礫処理を行えば日当が出る一方で、女性が一日中炊き出しを割り当てられても無給であったことなど、女性に対する配慮が足りなかつたために発生した問題を例に挙げて、地域防災における男女共同参画の視点が必要であることを学びました。

また、防災のためのアイデアを考え、課題と対策を話し合ってみると問題点が次々と出てきました。「住民全員が参加してくれるにはどうすればいいのか?」「訓練計画段階から男女一緒に参加すべきでは。」「避難ルートをみんなで歩いて時間を計り危険な所がないか確かめたり、非常食や保存食を作り試してみる。」実際に自分達で体験することで新たな発見ができ、またどんな人達が近所に住んでいるのかを知ることもできるのではないか。また避難区域からの被災者を受け入れる側の体制の問題もありました。これらの事はどこでも同じではないでしょうか。

佐賀は災害が少なく防災意識は高くないよう思います。しかし、いざという時に慌てないよう日頃から訓練し、身をもって学ぶ事が必要なのではないかと感じました。近所付き合いが希薄になっているところもあるようですが、東日本大震災後【絆】という言葉が多く使われてきました。災害時だけではなく日頃から【絆】を大切にし、互いを認め合い尊重しあうという気持ちを忘れないでいたいものです。



女性のためだけではない、みんなのための男女共同参画

野口 瞳

「男性は外で働き、女性は家を守る」という固定的な性別役割分担意識を持った家族は、男性の収入が安定して上昇し、共働きをしなくても生活することができるという前提がありました。しかしながら、1990年代からの経済・社会状況の大きな変動により、男女ともに非正規雇用者が増大するなど経済力も低下し、男性のみが経済的責任を負うことのプレッシャーといった、いわゆる「男らしさ」の限界に来ているということでした。

少子高齢化に伴う労働力低下の問題や、企業においては、男性中心の仕事の進め方に行き詰まりを感じ、ダイバーシティ（多様な人材の活用）が必要であると言われています。そのため、今後ますます女性の活躍が求められますが、女性を取り巻く状況が何も変わらないまま、社会的・経済的な女性の活躍を求められても実行に移すことは難しいと思います。仕事や家庭のことなど、従来までのあり方を再度見直す時期が来ているように感じました。

編集後記

今回のフォーラムは「男性の家事参加」をテーマに、女性が担いがちな家事を男性にも参画してもらい、ワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけとなるよう開催しました。

男性・女性お互いが認め合い、自立した関係性を持っていただけたらと思います。

編集委員 今泉 正子・大江登美子・北島 常子・中原 正彦
中溝 末大・森永美智子・松本 康子・園田 恭子・岡本ゆかり

「ぱすぽーと」に関する ご意見・ご感想をお寄せください

(発行)

佐賀市企画調整部男女共同参画課
〒840-8501 佐賀市栄町1番1号
【TEL】0952-40-7014
【FAX】0952-29-2095
【URL】<http://www.city.saga.lg.jp/>
(佐賀市役所HP)
【E-mail】danjokyodo@city.saga.lg.jp